ともに励まん

２０１８，１０，４（木）
北海道旭川永嶺（えいりょう）高等学校２年次だより　第２６号（通巻 71 号）

見学旅行の頃の気候

見学旅行出発まで19日となりました（中途半端な日数ですが）。３年生は、はや公務員試験、就職試験を終えた先輩もあり、センター試験は出願手続きに入り、センターおよび道看の本番までのカウントダウンも掲示されました。

ここに**一昨年の見学旅行中の天候データ**を示します。広島や京都という細かい地域データはないのですが、おおまかに関西方面の天候、気温、平年比と考えてください。どの程度の気温で、どんな服装の準備がいいのか、参考にしてみてください。平年比を付記したのは、この年がたまたま平年より暖かかったのか（寒かったのか）も判断材料になると思ったからです。

おととしの			最　低	最　高	（　）内は平年比	
出発日	１０月２５日	旭川	－１．８℃(-3.9)	１０．６℃(-1.8)	あさドカ雪	
		大阪	１２．８℃(-0.7)	１９．９℃(-1.6)		
２日目	１０月２６日	大阪	１７．０℃(+3.7)	２５．８℃((+4.4)	くもり	＊広島　雨
３日目	１０月２７日	大阪	１６．８℃(+3.6)	２３．２℃(+2.0)	晴れ	＊京都　晴れ
４日目	１０月２８日	大阪	１３．７℃(+3.7)	２０．３℃(-0.7)	くもり	
５日目	１０月２９日	大阪	１６．５℃(+3.7)	２１．６℃(+0.7)	晴れ	＊奈良　晴れ
		旭川	－１．４℃(-2.9)	３．８℃(-7.6)	根雪初日（史上最速）	

この年の旭川は寒かった。根雪初日も北海道の歴史上もっとも早くなったという年でした。初日は、冬タイヤでなければ学校に来られませんでした。ただ、関西に行ってしまえば、旭川の９月上旬から中旬くらいでしょうか（ただし最低気温はやはり大阪の方が高い。緯度も低いし大都会だからでしょうか）。上着、ジャケットのたぐいは不要でしょう（雨具は必要です。結構急な雨に当たることは多いです）。

初日登校時、最終日下校時に寒さが予想されるときには、薄手の、折りたたんで荷物にならない程度のものをバッグに入れてもいいし、ベストなどの重ね着でもいいでしょう。くれぐれも、くれっぐれも、ネクタイ、ブレザーの着用だけは忘れてくることのないように。

もうひとこと。見学旅行中、どのくらい歩くのかというと、私の記録では、最高20,000歩超、最低でも9,500歩。普段より相当歩きます。やはり歩き慣れた靴であることに越したことはありません。はき慣れないブーツだとか雪駄なんかはよした方が無難です。

以上、出典は伊丸岡手帳からでした。

どうやって登校しますか？

見学旅行の出発日は、集合時間が相当に早いですね。どうやって登校しますか？考えていますか？

遠い人もいますね。下宿の人はどうでしょう？ 保護者の送迎ができない家庭もありますよね。友だち同士で相談して、頼れるなら頼ってみましょう。ほんとうは、公共交通機関がない時間帯での集合、出発は心苦しのですが、今年になって、規模の大きな学校の修学旅行は、空港会社から早めの到着を要請されたためです。

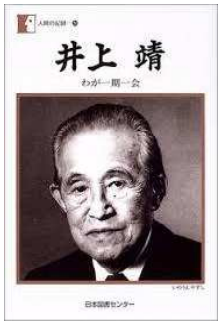
お願いが二つあります。

一つは、絶対に遅れないこと。ぎりぎり間に合うような時間設定だからです。

いま一つは、出発日、帰着日とも、送迎車両が校地内駐車場に入らないでください、というお願いです。7台の大型バスが入り、280名がバッグの積み下ろしをしますので。よろしくお願いします。

旭川出身作家二人の「母」

今回は、旭川生まれの二人の作家、井上靖と三浦綾子の作品の中から、母という共通テーマで作品を紹介します。



まず、**井上靖**ですが、彼の作品群は、大きく歴史物（日本の王朝時代物と、中国の西域もの）と自伝ものとがあります。私は中高時代、井上靖の自伝ものを好んで読みました。『しろばんば』「あすなろ物語』『夏草冬濤』などは有名ですね。私はそこに出てくる、実際に井上の育ての親代わりであったおばあさんがとても好きでした。これらは幼少年から青年時代の自伝ですが、晩年、ご自身の年老いたお母さんを描いた短編3編を合わせた**『わが母の記』**という自伝も味わい深い作品です。映画にもなりました。先日訃報が伝えられた樹木希林さんがその主役を務めました。年齢相応に少しずつ認知症を深めてゆく母との葛藤。静かな、温かな作品です。

一方、**三浦綾子**は、主婦業のかたわら懸賞小説に応募した『氷点』が1等になり、その後世界中に翻訳されて愛読されています。敬虔なクリスチャンで、信仰に基づく作品も多い。私はやはり中高時代以降、大人になってからも、『塩狩峠』『泥流地帯』『道ありき』『氷点』『銃口』などを読んで来ました。きょう紹介するのは**『母』**という作品で、戦時中、特高警察に拷問を受けて命を落とした小樽出身のプロレタリア作家「小林多喜二」の母の生涯を描いた小説です。多喜二の母セキは秋田の生まれ。本作はセキが秋田弁で語る一人称小説。これまた非常に感銘を受ける作品です。こちらは演劇になって上演されてもいます。

旭川にゆかりある文学者はたくさんいます。石川啄木も宮沢賢治も旭川に来ています。その他にも「へえ」と驚くような人たちと旭川は縁があるのです。常磐公園の端っこ、旭橋近くにある「旭川文学資料館」もおもしろいですが、三浦綾子、井上靖は立派な文学館が建てられていて、全国からファンがやってきます。さまざまな企画展や講演会も開かれています。両館とも青少年向けの作文やエッセーコンクールを開催し、三浦、井上の功績を伝え続ける活動をしています。

これをきっかけに、井上靖、三浦綾子の作品を読んでみませんか？ 文学館に行ってみませんか？ こんなにも偉大な作家が地元出身でいるのに、知らないのはもったいない。来年、推薦入試の面接なんかで、「どんな本を読んでいますか」といった質問に、堂々と、これら地元出身の作家を読んだ体験を語れると、かっこいいですよ！

『わが母の記』　井上　靖　講談社文庫
『母』　三浦綾子　角川文庫

三浦綾子記念文学館　1998(平成10)年開館　開館20周年　旭川市神楽7条8丁目
井上靖記念館　1993(平成5)年開館　旭川市春光5条7丁目

とくに今年は三浦綾子記念館の本館となりに「分館」ができたので、紹介します。これは豊岡にあった三浦家の住まい（書斎）を移築したもので、中では三浦夫妻が実際に行っていた「口述筆記」（体力の落ちた綾子さんが語り、夫の光世さんが筆記して作品が生み出されてきました）の体験もできます。お勧めです。

☆☆☆来週の行事と時間割☆☆☆

１０月 神無月		行　事　等 ①②は、１校時２校時をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
８	月	体育の日（3 連休）								
９	火		7 時間							
１０	水	講習(3)　５短　PTA 行事	6 時間							
１１	木	⑦ LHR　生徒総会議案審議	7 時間							
１２	金	講習(4)	6 時間							

しおりの完成予定は16日ごろです　　（文責　伊丸岡）